

かほだより



豚流行性下痢発生から1年

(豚流行性下痢の現状と今後の対応)

豚流行性下痢(以下PEDという。)が長野県内で発生(安曇野市2戸)して1年が経過しました。発生農場のうち1件は非発生農場へ復帰しましたが、1の表のとおり、初発の農場は現在でも継続して発生が見られています。現在初発農場ではグループシステム(スリーセブン方式)によるオールインオールアウトを実施し、PEDの清浄化に取り組んでいます。農場管理者及び食肉処理関係者等による懸命な感染拡大防止対策が継続されていますが、それぞれの農場におかれましても車両消毒等の侵入防止対策の徹底と万一侵入した場合に被害を最小限にするための母豚への適正なワクチン接種をお願いします。

1 初発農場のPEDによるものと思われる子豚の再発後の死亡状況(予防的淘汰含む)

	H26.10月	H26.11月	H26.12月	H27.1月	H27.2月	H27.3月	H27.4月	H27.5月	H27.6月	H27.7月
死亡頭数	237	242	147	78	114	141	174	49	24	18

* 現在離乳豚舎及び肥育豚舎でのPEDを疑う症状は確認されていません。

2 抗体検査結果

平成27年6月23日に採材した血清で行った初発農場のPED抗体検査の結果は右表のとおりでした。今後も継続して抗体価を測定し、農場内のウイルスの動きの把握を行っていく予定です。

個体情報	抗体価(倍)
60日齢	8
60日齢	16
60日齢	32
60日齢	16
60日齢	16
30日齢	8
30日齢	4
30日齢	2
30日齢	<2
30日齢	4
母豚・分娩前	4
母豚・分娩前	64
母豚・分娩前	16
母豚・分娩前	64
母豚・分娩前	≥ 128
母豚・分娩後	≥ 128
母豚・分娩後	≥ 128
母豚・分娩後	32
母豚・分娩後	≥ 128

3 抗体検査結果の考察

30日齢の子豚よりも60日齢の子豚の抗体価が高い傾向にあることから、ウイルスの動きに関して次の「2通り」が考えられます。

①60日齢の子豚が分娩舎内にいた時期は、まだPEDによるものと思われる下痢が発生していたため、自然感染し抗体価が上昇した。一方で、30日齢の子豚が分娩舎内にいた時期は、ほとんどPEDと思われる下痢が発生していないため、自然感染せずPED抗体は移行抗体のみだったため、抗体価が低くなっている。

②離乳豚舎内にPEDウイルスが存在し、子豚に再感染したため、30日齢に比べ、60日齢の子豚の抗体価が高くなっている。

4 PED対策

(1)出荷用車両の消毒

荷台やタイヤ周囲だけでなく、ハンドルやペダルを介してウイルスが農場内へ侵入する可能性があるため、これらの消毒の徹底をお願いします。特に畜産関係者が集まる場所から農場へ戻った際には重点的な消毒の実施をお願いします。

(2)ワクチン接種

PEDワクチンはPEDが農場へ侵入した際の被害を軽減する効果があります。ただし、ワクチンの効果を十分に発揮させるためには、子豚に十分な哺乳をさせる必要があります。

問い合わせ先：防 疫 課 宮澤、川島 (担当)